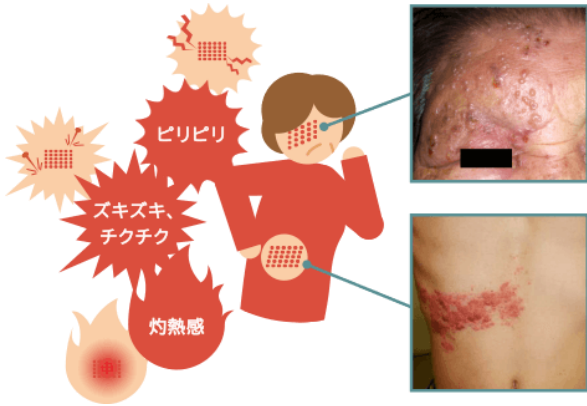


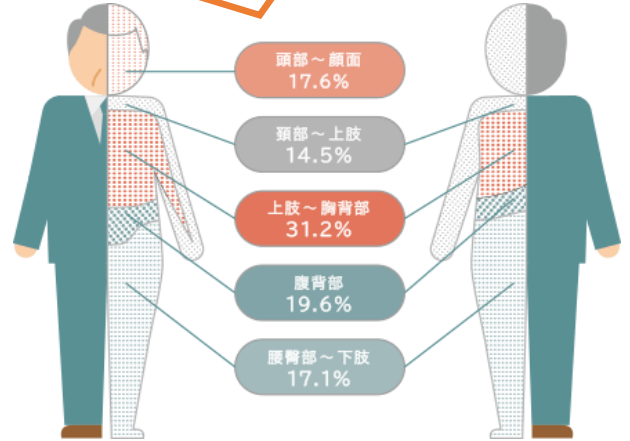
# 带状疱疹

带状疱疹とは、過去に水ぼうそうにかかったことがある人であれば、誰でも発症しうるものです（日本人の9割）。50歳以上の方は特に要注意であり、日本では80歳までに3人に1人が带状疱疹になるといわれています。

【症状】：強い痛みや皮膚の症状は、主に体の左右のどちらかにみられ、3～4週間ほど続きます。



带状疱疹の発症する体の部位



## 【带状疱疹になる原因】

水ぼうそう → 潜伏期間（体内にウイルスが残っている状態） → 免疫力低下（加齢・ストレス等によって免疫力が低下するとウイルスが暴れだす） → 带状疱疹発症（ウイルスは神経に沿って移動、皮膚に到達し、带状疱疹を発症する。）

通常、痛みは水ぶくれ（水疱：すいほう）や赤い発疹（ほっしん）が治るとともに軽くなりますが、皮膚の症状が治まった後も長期間にわたって続く痛みを、**带状疱疹後神経痛（PHN）**といいます。加齢とともにPHNへの移行リスクは高くなり、50歳以上の患者さんの約2割が移行すると報告されているため、注意が必要です。带状疱疹後神経痛（PHN）は、ウイルスが神経を傷つけることで起こるため、带状疱疹になったら、**できるだけ早く治療をはじめてウイルスを抑えることが重要です**。また、带状疱疹後神経痛（PHN）の痛みは、ウイルスの増殖によって引き起こされる炎症による痛み（带状疱疹痛）とは原因が異なるため、治療法も変わります。皮膚の症状が治まっても痛みが続く場合は、医師に相談しましょう。

## 【治療法】

主に、原因である水痘（すいとう）・带状疱疹ウイルスの増殖を抑える**抗ウイルス薬**と、痛みを抑える**鎮痛薬**が処方されます。

## 【予防】

### ☆50歳以上を対象とした、予防接種を受ける

- ・予防接種は带状疱疹を完全に防ぐものではありませんが、たとえ発症しても症状が軽くすむという報告があります。

### ☆免疫力を低下させないよう、体調管理を心がける。

- ・食事・睡眠をきちんととる
- ・疲れたら休息する
- ・適度な運動を心がける



带状疱疹発症中は人（小児）に感染させる可能性があるため注意！！

